



地域づくりにおける地域包括ケアシステム

令和4年度 地域づくり加速化事業（全国研修）

兵庫県但馬県民局
豊岡健康福祉事務所（豊岡保健所）兼 朝来保健所
所長 柳 尚夫

CONTENTS



目次

- 1 地域づくりにおける
地域包括ケアシステムの概要・意義
- 2 市町村に求められる視点
- 3 市町村の姿勢
- 4 振り返り・まとめ

地域のあらゆる活動にアプローチして構築する「地域包括ケアシステム」

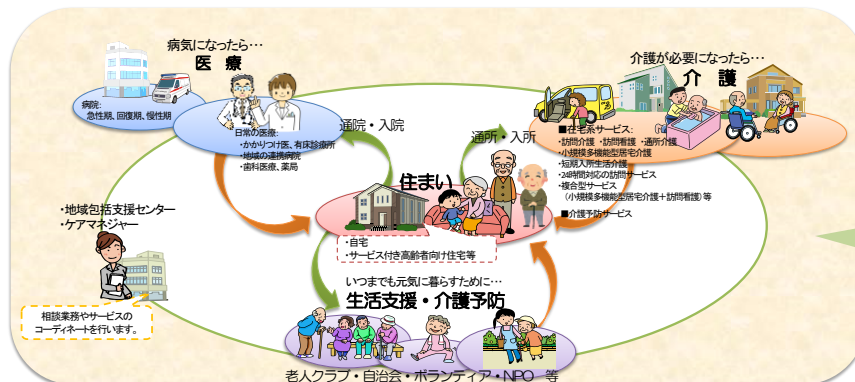
- 【高齢者】・高齡化の進展
- ・後期高齢者の増加
- 【担い手】・団塊世代の高齡化
- 【地域】・担い手の減少（住民・専門職等）
- ・血縁から地縁への転換、さらなる関係性の希薄化
- ・自治組織自体の高齡化・次世代の担い手不足
- ・産業構造の脆弱化

地域全体としての姿を
デザインし直す必要性

保健・医療・福祉だけの問題ではなく、他産業も含めた地域全体の問題として捉える必要がある

<高齢者施策の視点からみた地域づくり>

地域包括ケアシステムの構築（そのための地域支援事業、総合事業等）

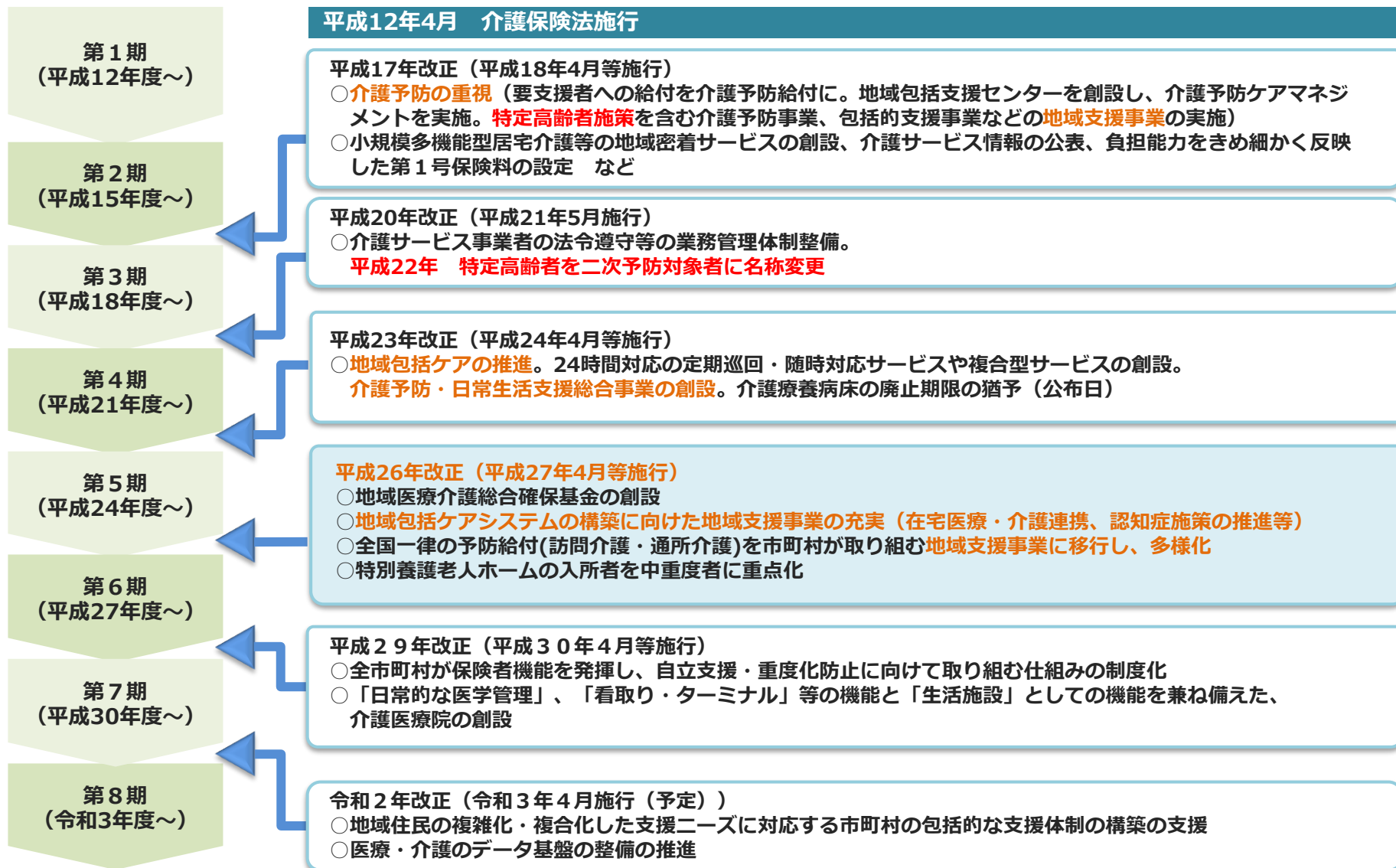


関係者、住民、すべての人が
地域に向き合って考えて行か
なければならない

我がまちの高齡化の進捗状況と資源を把握したうえで地域をデザインする必要がある

地域包括ケアシステムは、地域のあらゆる活動にアプローチしなければ構築できない

介護保険制度の主な改正の経緯



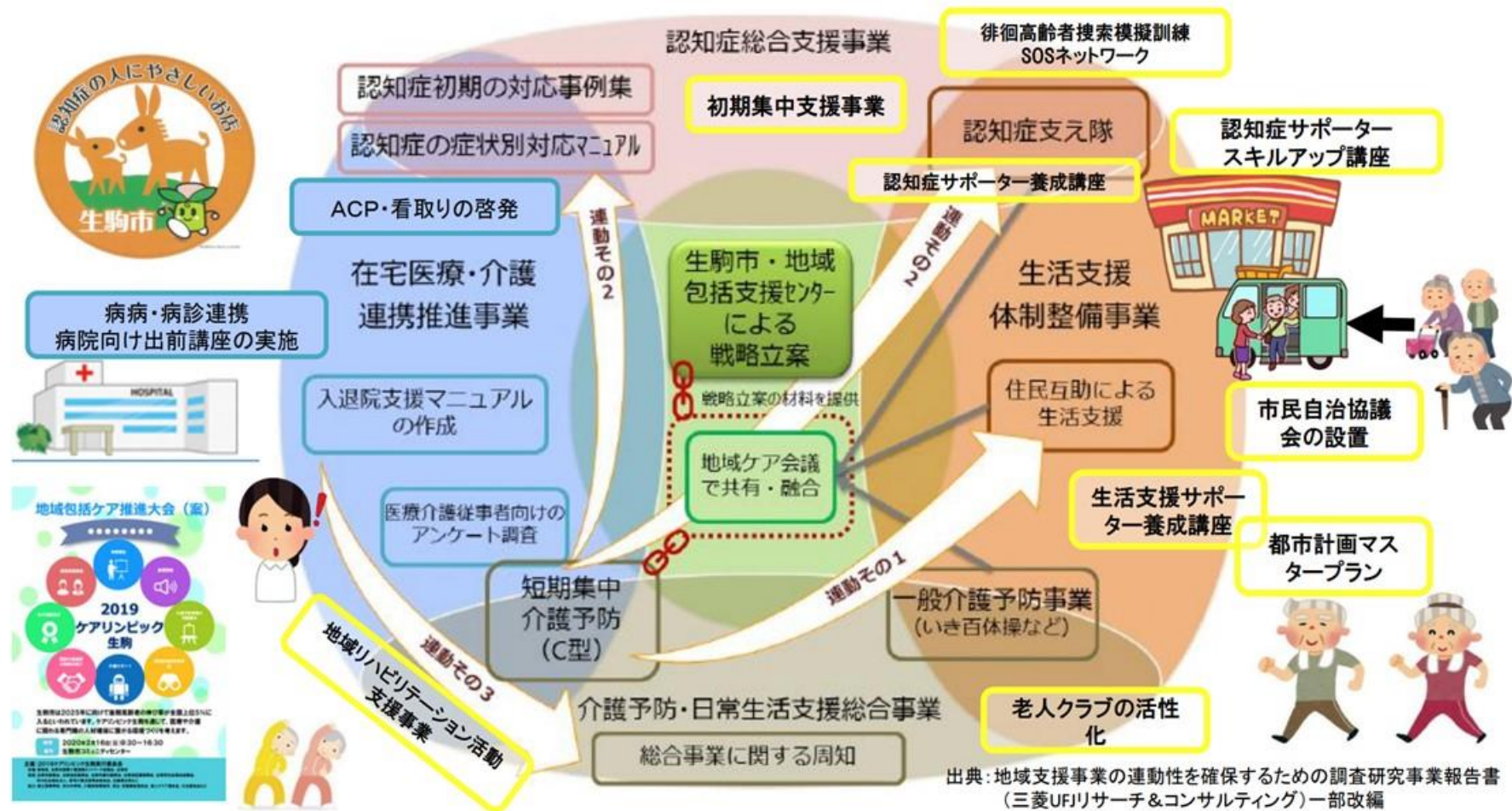
1 自分達の市町村（地域）において、高齢者を自立して生活するための支援の仕組みを考える

2 その仕組みづくりのために、必要な活動のために役に立ちそうな事業を地域支援事業を活用してつくる

3 国や都道府県から提示されている事業を見渡し、地域に必要な事業を実施する（すべての事業を必須で実施する姿勢から脱却する）

例) 奈良県生駒市

生駒市では、市の職員と地域包括支援センターと一緒に、地域包括ケアの進化・推進に向けて取組んできた。一例として、通所型サービスCを起点として、「住民互助となる支え合いの仕組みが生まれる」、「認知症サポーター養成講座により認知症支え隊が生まれる」など、1つの事業を通して、住民とも連携して、地域に必要な事業展開へ広がりを持たせてきた。



1 住民が主役である事を明確にし、行政は住民の力を信じる

2 行政が一方的に指示をするのではなく、効果的な手法を住民に提示し、住民が主体的に「介護予防」や「相互生活支援」に取り組める環境をつくる

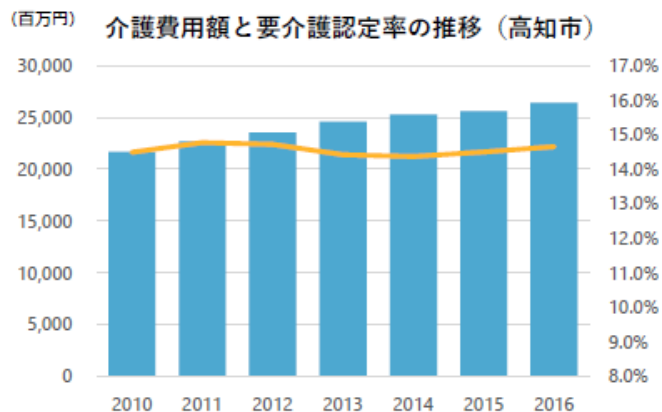
3 介護保険事業者を始め関係者に、市町村の方針を明確に伝え、その趣旨を理解している事業者や団体に、介護予防の活動に参加してもらう

例) 高知県高知市

住民が主体となることができ運動機能向上の体操を考案し、地域に根付くように専門職が支援を行う取組を実施。
住民が主体となることができよう、住民を対象にサポーターを養成。専門職は開始時に技術支援を行い、フォローも実施。

高知県高知市 — 運動・口腔機能向上のための住民主体の体操の取組 —

- 平成30年4月時点で総人口330,019人。うち、65歳以上高齢者人口94,888人(28.8%)、75歳以上高齢者人口47,249人(14.3%)。第7期1号保険料5,680円。地域包括支援センターは直営で5カ所、ランチを1カ所設置。
- 住民が主体となることができ運動機能向上の体操（「いきいき百歳体操」）を考案。地域に根付くように専門職が支援を行う取組を実施。
- 更に、住民主体の口腔機能向上の体操を考案し、定着しつつあった体操の集いを活用し、口腔機能向上の取組の地域展開を実施した。



※「介護保健事業状況報告年報」より、第1号被保険者数、要介護認定者数（要支援認定者数は含まない）、介護給付総額（費用額。予防給付は含まない）を用いて厚生労働省老健局において作成。年齢調整は行っていない。以下同じ。

介護予防の取組の変遷

- 平成14年度、運動機能向上プログラム「いきいき百歳体操」を作成し、モデル事業を実施し効果を確認。
- 住民が主体的に取り組むことができるよう、住民が集っている場での健康講座を活用し、地域での「いきいき百歳体操」の普及啓発活動を実施。
- 「いきいき百歳体操」に取り組む条件として、①週1~2回の頻度で最低3ヶ月以上は継続すること、②地域の誰でも参加可能、を設け、住民から“やってみよう”と声があがるまで待った。
- 住民から実施希望があった場合に、保健師や理学療法士等が支援。
- 平成17年度、さらに口腔機能向上の取り組みを進めるため、住民が主体的に取り組むやすい口の体操「かみかみ百歳体操」を作成し、モデル事業を実施して効果を確認。
- 地域に根付いた「いきいき百歳体操」の集いを活用し、「かみかみ百歳体操」を併せて実施できるよう、要望に応じてインストラクターを派遣するなど、支援を行う。



専門職の関与の仕方

- 各地域での「いきいき百歳体操」と「かみかみ百歳体操」の実施支援を行うため、地域の理学療法士、保健師、歯科衛生士を対象に、インストラクターを養成。
- 住民が主体となることができよう、住民を対象にサポーターを育成。
- 各体操開始時にインストラクターや市の専門職が、開始時に3~4回の技術支援を行い、以後3・6・12ヵ月後にフォローを実施。
- 体操の集いの場で、歯科衛生士等が口腔機能向上に関する健康講座を実施し、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア及び定期的な歯科受診の必要性を啓発。

振り返り・まとめ

1

地域包括ケアシステムの構築は地域づくりの視点を持ち、あらゆる資源に対してアプローチすることが重要

2

あるべき我がまちの姿の実現に向かい、保険者は必要な事業やツールを**自分達**で取捨選択することが求められる

3

住民の力を信じ、行政や専門職等も含め、「介護予防」や「相互生活支援」などに取り組める環境をつくる